

全国賃貸住宅新聞社は5日、初のオンラインイベントとなる『不動産DX祭り』を開催した。不動産業界のDX（デジタルトランスフォーメーション）について、協賛企業含め8社が登壇。テーマ別に自社の取り組みと効果について講演した。

YouTubeで生配信し、午後2時から5時までの3時間にわたりセミナーを実施。テーマは「RPA」「不動産M&A」「スマートロック」「VR仲

介」の4つだ。申込者は573人、当日の視聴者は最大212人、常時185人以上が視聴していた。

「RPA」の業務効

都新宿区)の2社が登壇。自社のRPA導入業務とオペレーション方法、導入効果を説明した。

ハウスパートナーH

と語った。一方、日本財託はRPAの導入効果が特に高かった業務として入居申し込みの基幹システムへの打ち込みなどを挙げた。R

ウェブセミナーに常時185人以上が視聴

全国賃貸住宅新聞社主催

『不動産DX祭り』

率化事例は、千葉県地場大手のハウスパートナーホールディングス（千葉県松戸市）と、約2万3000戸を管理する日本財託（東京

D・石川智哉社長は「ITで業務が効率化できることを社員が理解するようになり、生産性向上への意識改革にもつながっている」

PAによる年間の業務削減時間は7000時間に及ぶ。「スマートロック」の事例では、管理戸数1750戸のうち98・

9%で電子錠を導入しているアサヒグロイバル（三重県四日市市）と、管理戸数1万3000戸の三菱地所ハウスネット（東京都新宿区）の2社が登壇。三菱地所ハウスネットは、スマートロックの導入により、仲介会社への鍵の受け渡しがなくなったこと、セルフ内覧が可能になったことをメリットとして挙げた。

YouTube Liveで開催する。テーマは「管理システム」「入居者向けアプリ」「契約関連自動化」「VR」。



不動産DX祭り「美観のここ、DXどうよ!」 賃貸管理会社に聞いてみよう

▲アサヒグロイバル・樋口広土専務(右)と司会を務めた本紙記者・山本